

寺院跡

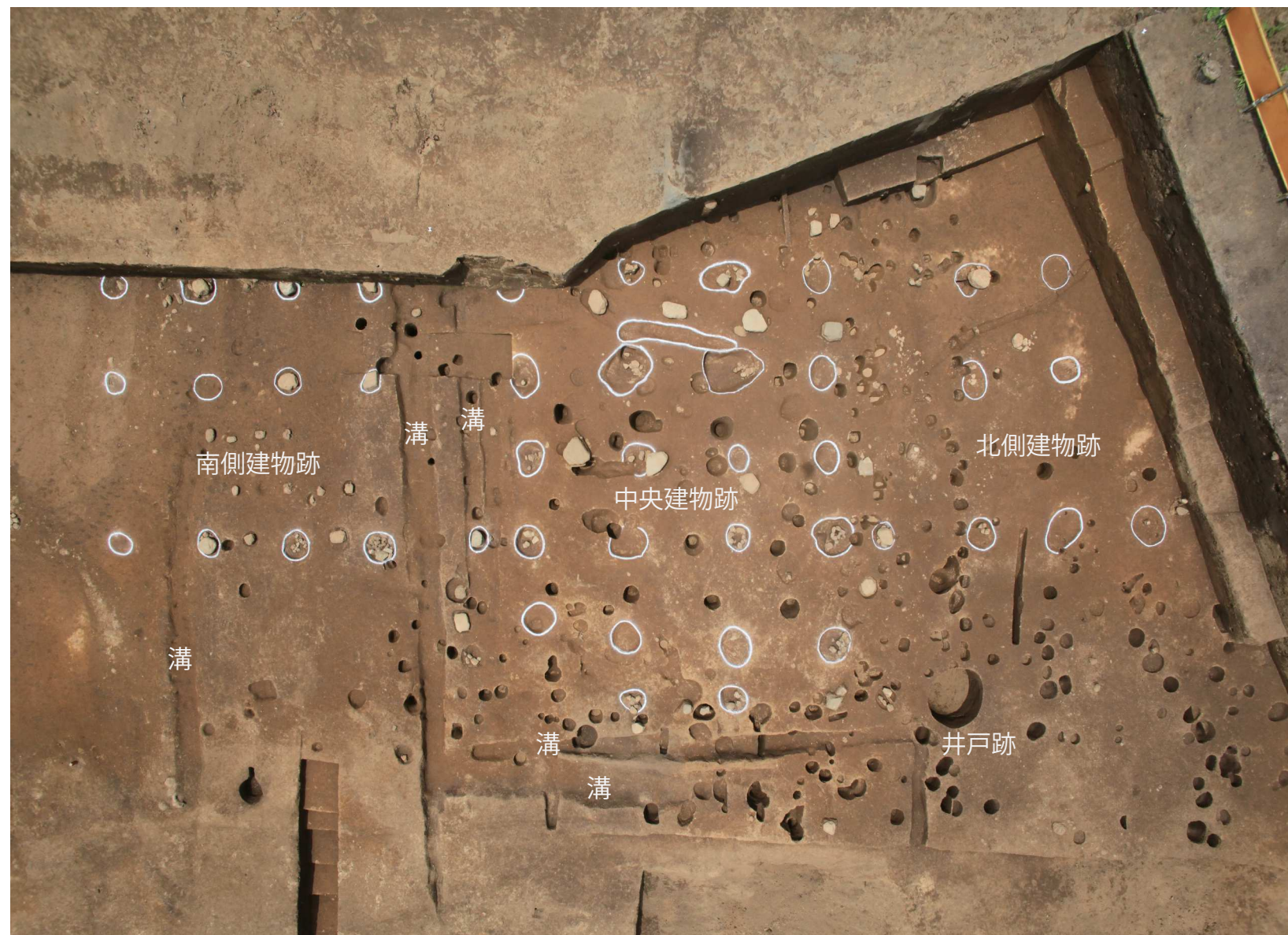
寺院跡は西側丘陵の斜面を削った平坦面上に位置し、中央の大きな礎石建物跡と、その南北に附属するように、やや規模の小さい礎石建物跡が並んで発見されました。

中央の建物跡は、周囲より0.2～0.3m程高く削り出された方形の基壇（きだん）の上に建てられていて、周囲には浅い溝が掘られていました。南北3間、東西4間の建物で、前面には向拝（こうはい）があり、四方に縁（えん）が廻っていたと考えられます。規模は南北が約7.2m、東西は約8.4mです。礎石は動かされていましたが、別の礎石や柱穴が多数確認されています。

南側の建物は、南北が3間、東西は2間です。規模は南北6.4m、東西5.8mと推定されます。北側の建物跡も同じ規模と推定されますので、対称的な建物配置が成されていたものと考えられます。

建物跡の西側背後に高い山があり、東側前面には池状遺構が位置していることから、西方浄土を意識した伽藍配置であった可能性があります。

建物跡の北側と南側には、西側の斜面から崩落したローム土が厚く堆積した部分が認められ、大雨か地震により被害を受けた跡と考えられます。



寺院跡の全景（東側上空から）

建物の柱の跡には、下の写真のように三つの種類がありましたが、建て替えによる変化については、今後、検討が必要です。



柱穴の底に小石を敷いてその上に大きな石を据えて礎石としたもの



大きな石をそのまま据えて礎石としたもの



深い穴を掘り、その中に柱を立てたもの



寺院跡西側の山（東から）



寺院跡と池状遺構（北から）

